

第2回研究会の振り返りと第3回研究会の議論内容

CO₂の回収・利活用に向けた研究会【第3回】

2026年1月16日

資料



目次

第2回研究会の振り返り	2
-------------	---

第3回研究会の議論内容	5
-------------	---

第2回研究会の振り返り

第2回研究会では、都に適したCO₂サプライチェーン構築を進めるための要件や、来年度以降の取組内容、供給体制構築に関する課題と解決策を取り扱った

第2回研究会の中で取り扱ったアジェンダ

都内で排出したCO₂を資源として回収、再利用するカーボンリサイクル産業実装化を目指し、

都に適したCO₂サプライチェーンの在り方を明確化し、
各事業者が連携し、実効性のあるサプライチェーン構築を目指す



都CO₂サプライチェーンの在り方



都が掲げる2030年カーボンハーフを1つの
マイルストーンとした場合に、
来年度以降に必要な取組内容

CO₂回収・利活用技術の種類や成熟度、
巻き込むべきステークホルダーなど、
CO₂サプライチェーン構築の必要要件



供給体制構築に焦点をあてた課題と方策



設備導入等に向けた方策の実施に向け、
課題となり得る要素の洗い出し

国内外で行われている
CO₂サプライチェーン構築支援を基に、
都の構築に必要な方策を検討



法規やコストなどの要素を考慮し、自走可能なバリューチェーン形成や技術連携が重要であり、その実現には特にコストの課題に対応する方策が必要であるとお発言いただいた

研究会参加者からいただいたコメント



都CO₂サプライチェーンの在り方

バリューチェーン形成

- 事業が自走するためのシナリオ作りが肝要
- 費用対効果を鑑みたCO₂サプライチェーン構築が重要

技術間連携

- 研究会を活用した企業間のコンソーシアム形成し、各事業者が持つ技術・特性のマッチングが必要に

事業実現に向けた検討要素

- 制約条件（都市計画法など）
- CO₂運搬に伴うコスト
- CO₂利活用先と排出源を鑑みた、CO₂性状



供給体制構築に焦点をあてた課題と方策

供給体制に関わる課題

- 分離回収コスト大
- 安価な水素確保ハードル
- コスト競争力の確保

課題に対応する方策

- 建設設備や土地賃借、専門人材などに対する支援
- 京浜島のグリーン水素活用や川崎市から多量の水素調達
- 需要拡大を見据えた導入規制
- 国の制度との整合性も含め適切な制度整備

第3回研究会の議論内容

来年度以降の実施方針や需要創出を後押しする施策の観点で活発的な議論を行い、都内で排出したCO₂の回収・利活用を実現性高く構築するための一助になることを期待

第3回研究会の取り扱うアジェンダと趣旨

CO₂サプライチェーン構築に向けた来年度以降の実施方針



今年いただいたご意見を基に、
都内で排出されたCO₂を資源として回収し、
再利用するサプライチェーン構築を効率的に進める
ための来年度以降の対応方針を検討

- 事業者が具体的に取り組みやすいCO₂サプライチェーン構築を進めるために、検討すべき事項は何か？
- 東京都からCO₂サプライチェーン構築に対してどのような関与が望ましいか？

需要創出を後押しする施策



供給体制の構築と同じく、CO₂由来製品の製造後に需要側への供給を視野に入れた議論が重要

その際の課題を共有し、
課題解決に向けた具体的な方策を検討

- 需要側へCO₂由来製品を販売する際の課題はなにか？
- その際に必要となる方策はなにか？